

2013年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2013年3月期第1四半期の業績について】

Q：保険業で追加コストが発生した案件について、詳しく教えてほしい。今回、金融ITソリューションセグメントの営業利益率を下げた要因はほぼそれだけと考えて良い？

A：顧客の名前や追加コストの金額は申し上げられない。プロジェクトは現在進行中で、来期まで続くプロジェクト。

金融ITソリューションセグメントの当該プロジェクト以外の部分は順調で、稼働率も高水準となっている。今回の金融ITソリューションセグメントの営業利益率を押し下げた要因は、ほぼそのプロジェクトの影響。

Q：保険業向けの当該案件に対して、今後のさらなる追加コストが発生する可能性は低い？

A：現時点で保守的に見積もっている。今後の追加コストは発生しないようにしたい。

Q：今回発生した不採算案件による追加コストは、業績予想に織り込んでいたもの？

A：予想には織り込んでいなかった。

Q：産業ITソリューションの受注残高の伸びはNRIシステムテクノの効果？

A：その影響は大きいですが、他にも案件が取れている。

【今後の見通しについて】

Q：証券業の主要顧客向けの第1四半期の売上高の伸びが大きいけど想定を上回るペース？ 第2四半期以降の売上高はどう推移していく？

A：想定範囲内の推移と見ている。通期の見通しに変化はない。

Q：今後、増収トレンドを続けていけるとの考え方に変わりはない？

A：金融業向けのトレンドは弱くないと感じている。一方で、産業向けではプライムアカウント活動によって顧客基盤の拡大が進んでいるものの、金融分野と比べたらまだ弱いと考えており、引き続き注力していく。

Q：通期業績予想を据え置いた背景は？上期の予想から第1四半期の実績を引くと、第2四半期の営業利益率は14%を超えるが、上期計画の達成の確度は？

A：まだ第1四半期が終わったばかりでもあり、通期目標については変更していない。第2四半期の営業利益率は少しハードルが高いが、通期の目標は何とか達成していきたい。

Q：証券業の主要顧客向けのSTAR-IV導入プロジェクトの終了後も、周辺システムの対応が続く

・本資料は、2013年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

見通しに変わりはない？

A：現時点で変化はない。

【その他】

Q：関西地区に検討している新データセンターはいつ頃の開設を考えている？

A：まだ竣工時期を言える段階ではない。

Q：既存のデータセンターを購入するわけではない？

A：高水準のデータセンターを自前で建設し、付加価値の高いサービスを顧客に提供していこうと考えている。

以上

・本資料は、2013年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。